

マリキナ大学 現地大学生と交流

マリキナ大学を訪問し学生との交流を行いました。マリキナ大学はテオドロ市長が市議時代に「貧しい子供たちのために大学を作りたい」という志から創設された大学です。今学期から学費が全額無料になったものの、実験室やパソコンなどが不足している課題を抱えています。

活発な質疑応答が繰り広げられ、町長からの「日本にきたい方はいますか？」の問いかけに多くの生徒の手が挙がりました。



AKI財団 英語教師の面接を実施

フィリピン共和国で日本語教室を運営しているAKI財団(大類晶副理事長)を訪問し、今年境町へ招く英語教師の面接を行いました。来年度は約20名の教師を招く予定です。

大類理事長は「この英語教育を公立学校に取り入れる境町の取り組みはモデルケースになる」と期待を述べました。



Voice



男女共同・国際室
係長 坂井 静香

町での英語教育を通して 町民との友好交流へ

フィリピンは、好調な経済と、高い英語力、国民の平均年齢が23才という若い力で発展し続けている国です。現地ではフィリピンの方たちの温かさを実感しました。今回の姉妹都市交流協定により、今後境町で実施される子どもたちへの英語教育から町民レベルの友好交流につなげていきたいと思っています。

●橋本町長

先進的な 英語教育を 境町へ



今回マリキナ市のみなさんと共に、全国に先駆けて先進的な英語教育を境町に取り入れます。日本の英語力はアジア27カ国中26位です。私はフィリピンの素晴らしい英語力を境町から日本へ広げていきたいと思っています。

この取り組みをマリキナ市と成功させることによって、国際感覚に優れた子どもたちが育っていくと確信していますので、今後の教育事業へのご協力をお願いいたします。また、今回の交流を通じ、マリキナ市の子どもたちと境町の子どもたちとの間に相互理解が深まり、将来にわたって友好交流が継続されていくことを希望いたします。

(締結式挨拶より抜粋)

●テオドロ市長

ビジネスの 機会拡大に 期待します



この度の締結によりまして境町とマリキナ市が文化的、教育的、そして事業・ビジネスを通じた交流が広がることを期待しております。今回の姉妹都市締結といえますのは、既に100年近くかけて培われてきた両国の偉大な友好関係をさらに強化し、我々が継続するものであります。マリキナ市と境町が両市町ともお互いに栄光を受けられんことをお祈りしています。

(締結式挨拶より抜粋)

在フィリピン日本国大使館

●内田総領事

21世紀の 姉妹都市提携



今回のマリキナ市と境町の姉妹都市提携によって、特に教師の派遣を通じたお互いのトレーニング・研修でありますとか、グローバルな教育が育まれることとなり、まさに21世紀のあるべき姉妹都市提携の形として考えられると思います。日本大使館といたしましても、両自治体のパートナーシップが今後も継続されることを期待しております。

(締結式挨拶より抜粋)

友好記念品 美術作品を贈呈

境町からは富士山をテーマにした版画作品(富張広司氏:作)を贈呈、テオドロ・マリキナ市長からは靴が友好記念品として贈られました。



境の子どもたちに世界基準の英語力を!

フィリピン共和国マリキナ市と 姉妹都市交流協定を締結!



締結式会場のカピタン・モイ



締結式会場のカピタン・モイにて、特産品の靴を持ち歓迎の儀を踊るマリキナ市の皆さん。カラフルな衣装も印象的

締結式にて両市町の今後の友好関係を期待し熱い握手を交わす、マリキナ市長と橋本町長



海外自治体と初の姉妹都市提携

協定の締結式にて、遠藤乙彦元財務副大臣(後列右から7番目)、日本大使館内田総領事(前列右端)、テオドロ・マリキナ市長(同5番目)、AKI財団の大類晶副理事長(同7番目)、



フィリピンの伝統的な歓迎の儀式

フィリピンから教師を招き 英語力の底上げを目指す

5月18日、フィリピン共和国マリキナ市の迎賓会場カピタン・モイにて、境町とマリキナ市の姉妹都市交流協定の締結式が開催されました。境町一行は、マリキナ市の特産品である靴を持った子供たちの鮮やかな歓迎の踊りで出迎えられました。調印式には、マルセリーノ・R・テオドロ・マリキナ市長をはじめ、ジョセリト・リベラ・マリキナ大学学長、教育関係の責任者や、市幹部が出席、境町からは、橋本町長、半村県議会議員、倉持議長はじめ町議会議員、増田教育長、青谷教育委員、

また、今回の姉妹都市交流締結に尽力いただいた遠藤元財務副大臣、AKI財団の大類理事長、そして、日本大使館内田総領事に出席いただき、盛大に開催されました。今回の協定締結によって、境町にマリキナ市で研修を受けた英語教師を招く教育事業やビジネス交流を積極的に進めたいと考えています。

締結式終了後は、マリキナ大学の視察を行いました。マリキナ大学は9000人の学生数を誇り、日本語を第2外国語として専攻するコースもありました。橋本町長も学生たちと懇談し、町長に向けられる質問に学生のレベルの高さを感じられるとともに、アニメなどの文化を通じて日本に興味を持っている学生も多く、大変親日であるという印象を受けました。その後、AKI財団にて境町へ招く英語教師の面接を行いました。3名の募集に対し6名の応募があり、今後の活躍に期待が持てる面接となりました。9月からは選ばれた3名の教師を招き、境町の子どもたちの英語力の底上げを目指していきます。